

神戸大学校友会ニュースレター

いつも校友会の活動にご支援ご協力いただきありがとうございます。

— インフォメーション —

【1】トピックス

- (1) 神戸大学震災慰霊献花式（兵庫県南部地震犠牲者追悼行事）

【2】お知らせ

- (1) 都市安全研究センターのオープンゼミナール 記念の第 300 回
震災 30 年特集
- (2) 国際共修ワークショップ with インホランド応用科学大学（オランダ）」
を開催
- (3) 神戸大学の認知症予防事業が NHK「クローズアップ現代」に取り上げられ
ました
- (4) 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」伴走チームによる
サイトビジットを実施
- (5) アメリカ・テネシー州を訪問
- (6) 神戸大学経済経営研究所、信金中央金庫主催公開シンポジウム「持続可能な
地域経済社会の実現に向けて」を開催
- (7) 神戸大学×関西電力 SDGs 連続講座 2024「ゼロカーボン社会の実現にむ
けて—エネルギーの今と未来を考える」第 3 回 堺港発電所・ハイドロエッ
ジの現地見学を実施
- (8) 神戸大学とフューチャー、AI を活用した医療面接トレーニングアプリの開発
を推進
- (9) 域学連携推進会主催 洲本市での竹林伐採体験フィールドワークを実施
- (10) SDGs 学生推進プログラム 学生委員会企画イベントを開催
- (11) 「ミライノピッチ 2024」にて神戸大学起業部 Plastruclub がグランプリの
NICT 賞を受賞

【3】研究ニュース

- (1) 海神丸を利用した船底塗料の実船検証ならびに船体とプロペラの性能モニタ
リングの実施

- (2) 脳のつながりから痛みの治療効果の予測が可能に
- (3) 送粉も種子散布も同じ昆虫にお任せ！?
- (4) 銀河ダイナミクスが導く太陽系の旅路
- (5) 20分間の運動で記憶力アップ! 8週間後も効果が続く!
- (6) 「微生物推定支援 AI ソフトウェアのエントリーモデル BiTTE® lite」をカーブジェンと開発
- (7) 心房細動の進行の新たなバイオマーカーとなるタンパク質「アンフィレグリン」を特定
- (8) タンパク質の小胞体における運命決定機構を解明
- (9) 「細菌感染症菌種推定支援 AI ソフトウェア BiTTE®-Urine」をカーブジェンと開発
- (10) 酵母のタンパク質合成を自在に制御する手法を確立

【4】フィーチャー

- (1) 被災自治体の機能を補う効果的な支援を
ー震災30年シリーズ⑩【行政学】
- (2) 防災を目的にしない農村地域づくりを
ー震災30年シリーズ⑪【農業農村経営学】
- (3) 住民が主体となる地域デザインへ
ー震災30年シリーズ⑫【地域デザイン論】
- (4) 阪神・淡路大震災30年 当時の学生の思いは?
工学部でトークセッション

【5】受章

- (1) 紺綬褒章伝達式を執り行いました

【6】イベント等情報

- (1) 神戸大学阪神・淡路大震災30年シンポジウム
- (2) 震災30年後期パネル写真展
- (3) その他のイベント情報

【1】トピックス

(1) 神戸大学震災慰霊献花式（兵庫県南部地震犠牲者追悼行事）

神戸大学は令和 7 年 1 月 17 日、兵庫県南部地震犠牲者に対する追悼行事を執り行います。

平成 7 年 1 月 17 日に発生した兵庫県南部地震で神戸大学では学生 39 人(うち留学生 7 人)、職員 2 人の計 41 人、神戸商船大学(現海洋政策科学部) では学生 5 人(うち留学生 1 人)、研究員 1 人の計 6 人が犠牲となりました。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241217-66347/>)

【2】お知らせ

(1) 都市安全研究センターのオープンゼミナール記念の第 300 回震災 30 年特集

神戸大学都市安全研究センターは 11 月 16 日、阪神・淡路大震災 30 年をテーマとするオープンゼミナールの第 3 回をハイブリッド形式で開催しました。この日のオープンゼミナールは記念すべき第 300 回目にあたります。長年、都市安全研究センター教授としてオープンゼミナールを継続してきた北後明彦名誉教授が「建築・都市安全計画学の 30 年とこれから」と題した講演を行いました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241128-66286/>)

(2) 国際共修ワークショップ with インホランド応用科学大学（オランダ）」を開催

オランダ王国インホランド応用科学大学が神戸大学を来訪しました。インホランド大学の一行は、国際共修・アントレプレナーシップ教育の一環として、日本でのフィールドワークを行なっています。神戸大学 V.School は、彼らのフィールドワークの一環として、神戸大学の学生と一緒に価値の共創について学ぶためのワークショップを共同企画しました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241128-66285/>)

(3) 神戸大学の認知症予防事業が NHK「クローズアップ現代」に取り上げられました

神戸大学大学院保健学研究科の古和久朋教授が NHK「クローズアップ現代」に出演し、軽度認知障害の改善に関連して、神戸大学の認知症予防事業を紹介しました。

運動を主体とした多因子介入による認知機能向上については、9月に神戸大学が初めて国内で実証しています。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241129-66297/>)

(4) 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」伴走チームによるサイトビジットを実施

11月25日、神戸大学統合研究拠点及び神戸大学大学院医学研究科メドテックイノベーションセンター（MIC：MedTech Innovation Center）にて「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」伴走チームによるサイトビジットが実施されました。

当サイトビジットは、J-PEAKS 事業の中核となる研究拠点等の視察と、学長をはじめとした神戸大学執行部との意見交換を通じ、事業の進捗状況の確認や課題を把握することを目的としたもので、神戸大学の担当サポーターである財満鎮明氏（名城大学 大学院理工学研究科 教授、学長補佐）を筆頭に、地域中核・特色ある研究大学の振興に係る伴走チーム、文部科学省、日本学術振興会の関係者 11 名が来学しました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

（ <https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241202-66304/> ）

(5) アメリカ・テネシー州を訪問

10月13日から17日にかけて、神戸大学の田中順子大学院国際文化学研究科教授・国際連携推進機構アメリカ部門長及び井上弘貴大学院国際文化学研究科教授が、アメリカ・テネシー州を訪問しました。

訪問中、田中教授らはテネシー大学ノックスビル校の Gretchen Neisler(グレッチェン・ナイスラー)副学長、Rachel Rui(レイチェル・リュウ)アジアエンゲージメントオフィス長、海外派遣担当者等との今後の協力体制について意見交換、留学希望者の動向についての聴取や、神戸大学経営学部との部局

間学生交流実施細則の締結に向けた具体的な話し合いが行われました。両大学の学生が相互に学び合う機会が増えることが期待されます。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241205-66315/>)

(6) 神戸大学経済経営研究所、信金中央金庫主催公開シンポジウム「持続可能な地域経済社会の実現に向けて」を開催

神戸大学経済経営研究所では、共同研究等を通じて、地方自治体、地域企業、地域金融機関、地域支援団体などとの連携を図っており、地域連携活動の拠点として地域の金融機関様や団体様との共同研究を強力に推進しております。

神戸大学と信金中央金庫は、2023 年より中小企業の脱炭素経営の実現を目指して共同研究を進めてきました。

本シンポジウムの目的は、共同研究の成果および「しんきんグリーンプロジェクト」の 2030 年における具体的なゴールを発信することにより、脱炭素化等の環境負荷低減に向けた取り組みを加速し、持続可能な地域経済社会の実現に貢献することです。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241206-66321/>)

(7) 神戸大学×関西電力 SDGs 連続講座 2024「ゼロカーボン社会の実現にむけてーエネルギーの今と未来を考える」第3回 堺港発電所・ハイドロエッジの現地見学を実施

神戸大学学術研究推進機構 SDGs 推進室は関西電力株式会社との共同企画として実施している連続講座の第3回は、11月28日、同社堺港発電所（LNG 火力発電所）と、液化水素製造プラントの株式会社ハイドロエッジ（ともに大阪府堺市西区築港新町）での現地見学を行い、18名が参加しました。

火力発電は、資源に乏しい日本において、高度経済成長期の主力電源としてその割合を増していきましたが、2011年の東日本大震災以降の再生可能エネルギーの急速な拡大を受け、電力需給の調整役として重要な役割を果たしています。また、水素エネルギーは、地球環境問題と資源エネルギー問題を同時に解決できる可能性を持つクリーンエネルギーとして期待が高まっています。特に、液化水素は大量貯蔵・大量輸送が可能であり、かつ高純度であるという利点から、水素の大量消費時代に欠かせないエネルギー源といわれています。



○詳細は、こちらをご覧ください。

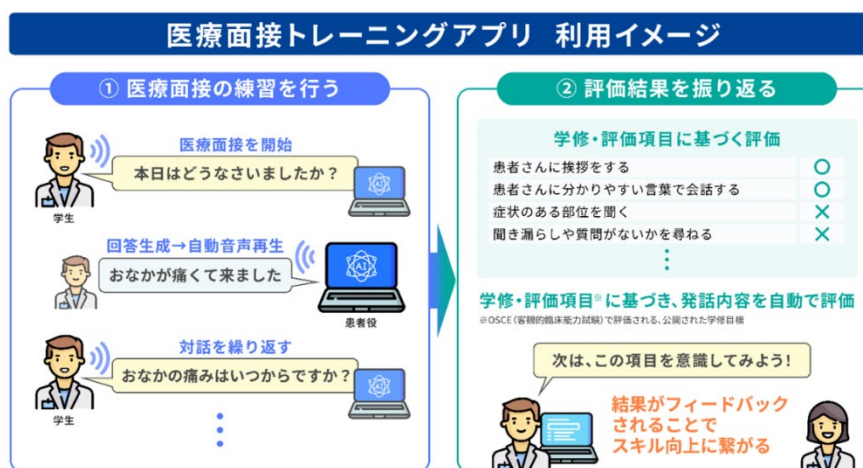
(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241210-66330/>)

(8) 神戸大学とフューチャー、AI を活用した医療面接トレーニングアプリの開発を推進

—医学生への臨床教育の質向上と効率化を目指し、問診用対話型 AI の有効検証を実施—

神戸大学とフューチャー株式会社は、医学生向けに AI を活用した医療面接トレーニングアプリを開発し、10 月から 11 月末にかけて有効検証を実施しました。

神戸大学とフューチャーは、神戸大学大学院医学研究科および神戸大学医学部附属病院におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の調査研究、試行に関する共同研究契約を 2023 年 4 月に締結し、最先端のテクノロジーを活用した大学および附属病院の DX とイノベーションを推進しています。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241210-66328/>)

(9) 域学連携推進会主催 洲本市での竹林伐採体験フィールドワークを実施

神戸大学学術研究推進機構 SDGs 推進室では、法経連携専門教育プログラム（ELS）課題研究「脱炭素社会の地域づくり」の授業と連携をすすめています。この授業は、気候変動対策などを専門とする様々な分野の研究者や、再生可能エネルギーの導入に取り組んでいる企業や NPO の方々に参加していただき、学生との双方向的なワークショップを授業の中で行っていることが特徴で、SDGs 推進室とも連携している地球環境戦略研究機関（IGES）関西研究センター所属の研究者が講義のコーディネートを担当されています。毎年授業の最終回では、履修学生がこの授業において学んだことを踏まえて、脱炭素社会構築のための提言を行っており、喜多隆 SDGs 推進室長が出席して対話の場を設けています。2020 年度には、履修学生の一部有志が、神戸大学

が 2050 年にカーボンニュートラルを達成することを目指すため、教職員のみならず、学生が主体的に議論し活動するための場として「神戸大学環境会議」を設置することを提言し、それが実現しました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241210-66332/>)

(10) SDGs 学生推進プログラム学生委員会企画イベントを開催

SDGs 学生推進プログラム学生委員会では、「Be the 3.5%～社会を動かす 3.5%になろう～」をテーマにした自主企画を開始しました。12月2日、アウトドアウェアブランド「パタゴニア」神戸ストア、大学生を中心とする団体「NO YOUTH NO JAPAN」の皆さんとのコラボレーションイベントを、鶴甲第1キャンパス学生ホールで開催しました。この企画は、一人ひとりが、気候変動や大量生産・大量消費による環境問題を考え、小さなことでも明日からできることに取り組むこと。そして、得られた気づきをそれぞれのコミュニティに持ち帰り、行動変容の輪を広げていくことを目指した取り組みです。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241210-66333/>)

(11) 「ミライノピッチ 2024」にて神戸大学起業部 Plastruclub がグランプリの NICT 賞を受賞

12月7日に開催された、公益財団法人大阪産業局主催の「ミライノピッチ 2024」において、神戸大学起業部の Plastruclub（代表：森下日菜子、経営学部2年）がグランプリにあたる NICT 賞を受賞しました。また、これに加え、FUTRWORKS(阪急電鉄株式会社)賞および、さくらインターネット賞も受賞し、見事な成果を収めました。

さらに、神戸大学起業部から出場した Standy（代表：大西拓斗、法学部2年）は近畿総合通信局長賞、マネーフォワード賞、AgVenture Lab 賞、池田泉州銀行賞を受賞。Farewell Care（代表：森田 湧斗、経営学部1年）はパソナグループ賞を受賞しました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

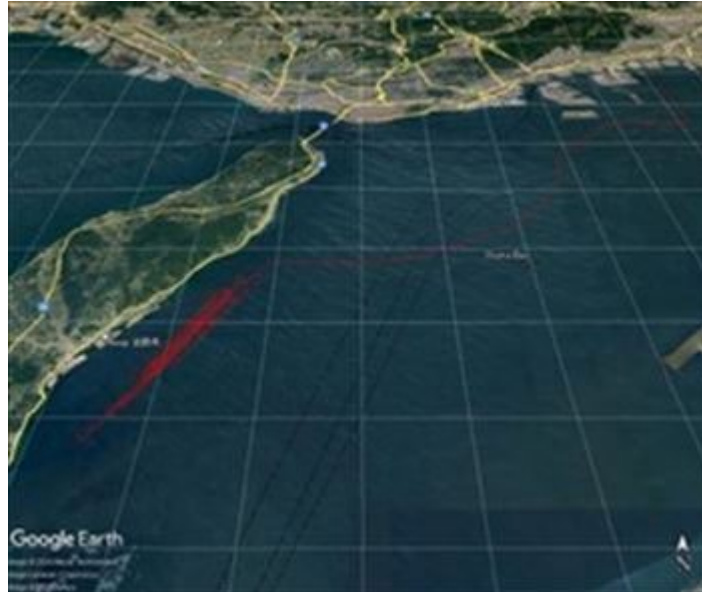
(<http://www.innov.kobe-u.ac.jp/entre/news/2024/1209.html>)

【3】研究ニュース

(1) 海神丸を利用した船底塗料の実船検証ならびに船体とプロペラの性能モニタリングの実施

神戸大学大学院海事科学研究科藤本昌志教授（海神丸船長）、尾崎高司講師（海神丸機関長）、石田達朗准教授、附属国際海事研究センター三重野紘央リサーチフェローは中国塗料株式会社、株式会社三井造船昭島研究所、ナカシ

マプロペラ株式会社、海上・港湾・航空技術研究所海上技術安全研究所と「低稼働内航船に適した船底防汚塗料の実船検証」のテーマで共同研究を実施しています。本共同研究は、海神丸の①海上公試模擬試験による新造船からの性能変化評価結果と②試験実施時の船体・プロペラ汚損評価結果を対比することにより、船体・プロペラ汚損の性能への影響を可視化すること、海神丸のような低稼働の内航船に適した高性能防汚塗料の検証を行い、適用による燃料削減効果やCO₂削減効果を学術的に評価することを目的としています。



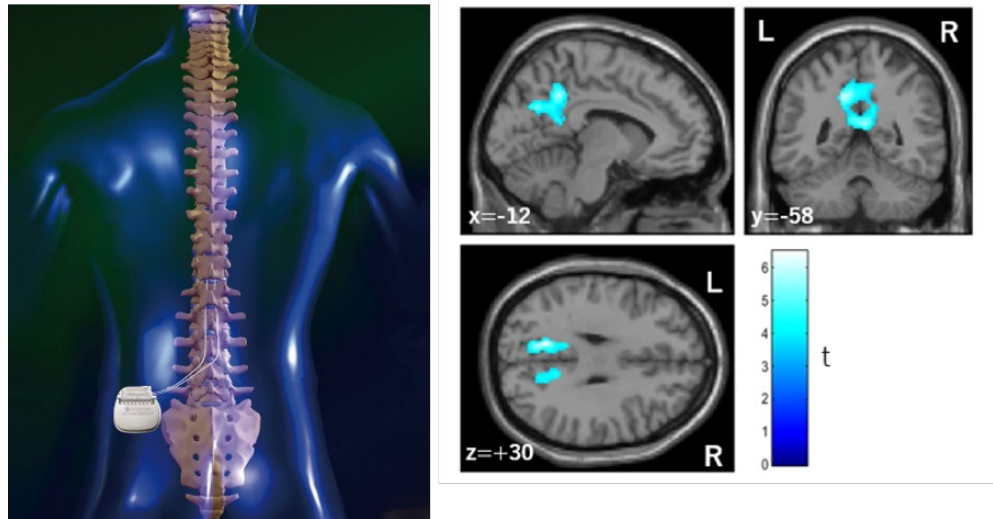
○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.maritime.kobe-u.ac.jp/news/2024/20241125.html>)

(2) 脳のつながりから痛みの治療効果の予測が可能に

神戸大学大学院医学研究科外科系講座麻酔科学分野の上野喬平特定助教、溝渕知司教授、大城宜哲客員准教授らの研究グループは、難治性疼痛（治療が難しい痛み）を抱える患者に対し、脊髄に微弱な電流を流すことによって痛みを和らげる「脊髄刺激療法」の効果を、治療前に脳機能画像から予測できる方法を解明しました。脊髄刺激療法は、手術や薬物療法で鎮痛効果を得られない慢性の難治性疼痛治療に有効ですが、太い針を用いて電極を挿入したり、手術によって体に電極や電池を埋め込むため患者には大きな負担がかかります。脳機能画像を使って事前に治療の奏功を予測できれば、より多くの患者に適した治療法を選択しやすくなり、無駄な手術や負担を避けることが可能になります。

今回の研究では、脳の中で痛みの感じ方に深く関わっている「前帯状回」と「楔前部/後帯状回」という部位間の結びつきが強ければ強いほど、痛みの改善効果が乏しいことが分かりました。今後、新たな脳部位の発見や、脊髄刺激療法の適応や効果判定を事前に予測できることが期待されます。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241203-66305/>)

(3) 送粉も種子散布も同じ昆虫にお任せ！？

神戸大学大学院理学研究科の末次健司教授（兼 神戸大学高等学術研究院卓越教授）と橋脇大夢氏（神戸大学大学院理学研究科博士前期課程 2022 年度卒業生）は、ツチトリモチ科の寄生植物「アマクサツチトリモチ」が、送粉と種子散布の両方をアリやカマドウマに依存していることを明らかにしました。

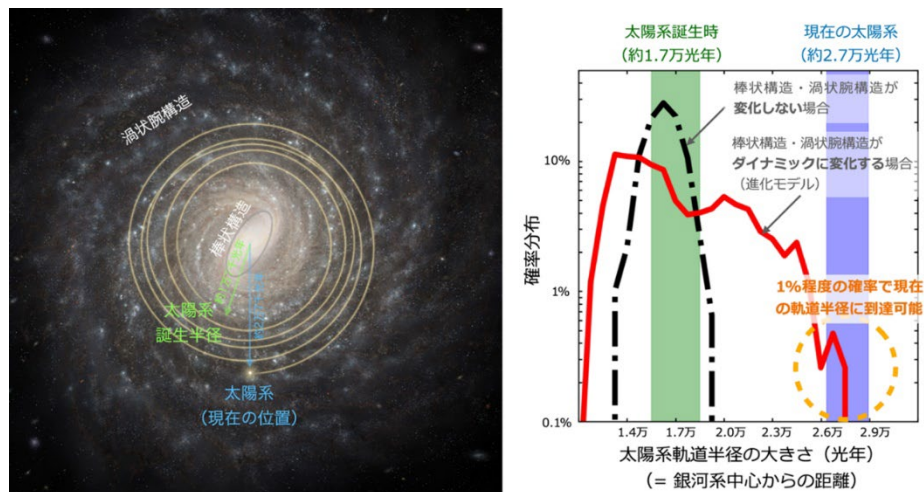


○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241205-66119/>)

(4) 銀河ダイナミクスが導く太陽系の旅路

鹿児島大学天の川銀河研究センターの馬場淳一特任准教授は国立天文台の辻本拓司助教、神戸大学大学院理学研究科の斎藤貴之准教授と共同で、天の川銀河内における太陽系の移動とその周辺環境の変化に関する数値シミュレーションを実施しました。その結果、太陽系が約 46 億年前に現在の位置よりも銀河系中心に近い危険な環境で誕生し、長い年月をかけて安全な外側領域に移動してきたことを示す新たなメカニズムを明らかにしました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241205-66308/>)

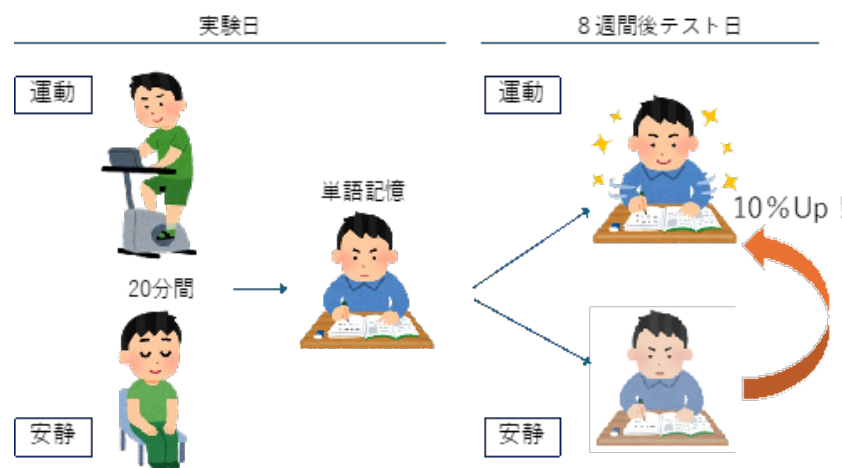
(5) 20分間の運動で記憶力アップ！8週間後も効果が続く！

長期記憶は脳の機能のひとつであり、学校や仕事という社会生活を送る上で重要な脳機能になります。これまでの研究では、運動をした後に記憶学習をすると記憶テストの成績が約1週間後まで向上することが示されていました。一方で、その効果がどれほど持続するのかについては不明でした。そのため、本研究では中強度の運動後に記憶学習をし、その後11ヶ月後までの記憶保持に対する影響を調査しました。

参加者は全員が「運動後に学習（運動条件）」もしくは「座位安静後に学習（安静条件）」という条件の中で、単語の記憶学習を行い、その後に単語思い出しテストを行いました。単語思い出しテストは、記憶学習の24時間後、4週間後、6週間後、8週間後、そして11ヶ月後に実施しました。単語思い出しテストの正答数は、24時間後では運動条件と安静条件間に差がみられず、

4週間後ではわずかに運動条件での正答数が多かったものの統計学的な差は認められませんでした。しかし驚いたことに、6週間後と8週間後のテストでは、運動条件の正答数が安静条件よりも多くなりました（約10%増@6週間後、約8%増@8週間後）。ただし、11ヶ月後には条件間での差は消失していました。これらの結果は、記憶学習前に中強度の運動をすると少なくとも8週間は長期記憶が強化されることを示しています。

本研究は森田憲輝（北海道教育大学岩見沢校）、石原暢（神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授）、Charles Hillman（Northeastern University、USA）、紙上敬太（中京大学）の共同研究によって実施されました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

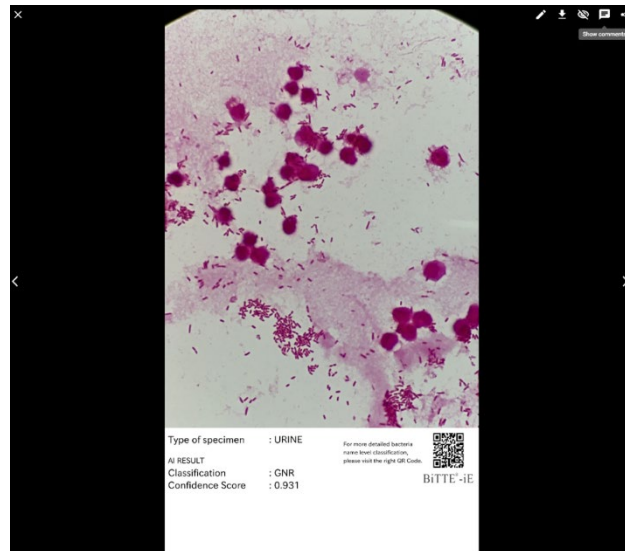
(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241206-66319/>)

(6) 「微生物推定支援 AI ソフトウェアのエントリーモデル BiTTE® lite」をカーブジェンと開発

カーブジェン株式会社は、クラウドベース AI 画像解析プラットフォーム「CarbConnect®（カーブコネクト）」の連携アプリとして、「BiTTE® lite」の提供を開始しました。

BiTTE® lite は、既存の「微生物推定支援 AI ソフトウェア（非医療機器）BiTTE®-iE」を基に、基本的な菌形態分類機能に特化したエントリーモデルとして開発されました。

神戸大学都市安全研究センター・医学部附属病院検査部の大路剛准教授らとの共同研究結果をもとに開発され、今後は途上国を含めた海外展開も視野に、研究機関や教育現場での菌形態分類の普及が期待されます。

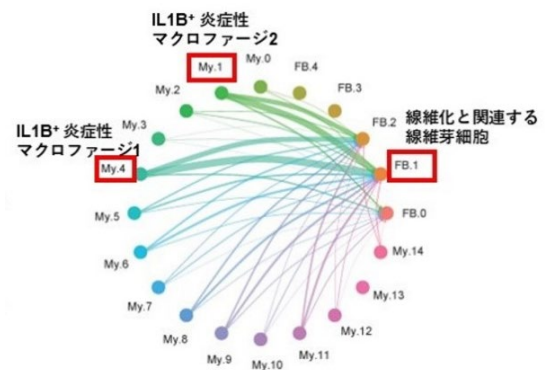


○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241210-66323/>)

(7) 心房細動の進行の新たなバイオマーカーとなるタンパク質「アンフィレグリン」を特定

神戸大学大学院医学研究科内科学講座循環器内科学分野の鈴木雄也医学研究員、江本拓央医学研究員、平田健一名誉教授、同分野不整脈先端治療学部門の福沢公二特命教授、大学院科学技術イノベーション研究科先端医療学分野の山下智也教授らの研究グループは、淀川キリスト教病院心臓血管外科佐藤俊輔部長との共同研究にて、シングルセル RNA シークエンス解析およびシングルヌクレイ RNA シークエンス解析を用いて、心房細動の左房組織において、マクロファージから上皮成長因子（Epidermal growth factor：以下、EGF）ファミリー分泌蛋白であるアンフィレグリンが、線維芽細胞の EGF 受容体にリガンドして結合し、線維化促進シグナルを介して心房の線維化に関与して心房細動の機能的バイオマーカーとなる可能性を証明することに成功しました。今後、このデータをもとにした心房細動に対する抗線維化を目指した治療法の開発が期待されます。



CellChat解析による上皮成長因子：EGF
シグナルの関係性の強さを示す

IL1B+ 炎症性マクロファージと線維化と
関連する線維芽細胞の関係が強い

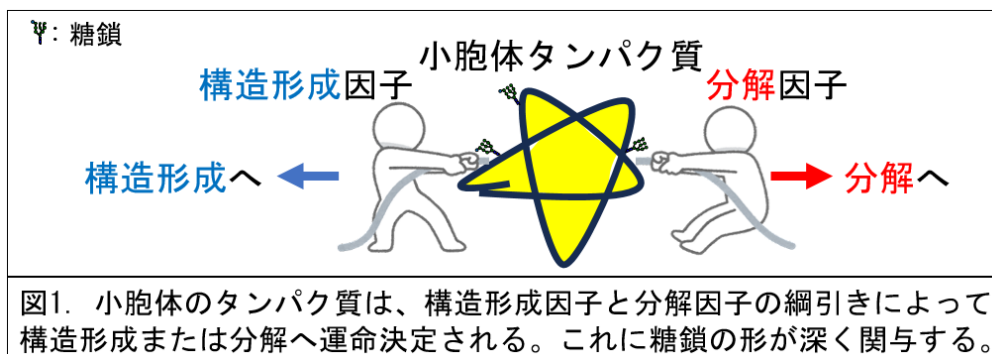
○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241210-66320/>)

(8) タンパク質の小胞体における運命決定機構を解明

神戸大学バイオシグナル総合研究センター蜷川暁助教（神戸大学大学院農学研究科助教兼任）、松尾将生 同大学院生、京都大学大学院理学研究科森和俊教授（研究当時、現：高等研究院 特別教授）、鄧桜同大学院生（研究当時）、自然科学研究機構生命創成探究センター加藤晃一教授（名古屋市立大学大学院薬学研究科特任教授・分子科学研究所教授兼任）、名古屋市立大学大学院薬学研究科矢木宏和准教授（生命創成探究センター客員准教授兼任）らを中心とした研究グループは、タンパク質の構造形成を促す小胞体内糖付加酵素の機能を調べることによって、タンパク質の小胞体における運命が糖鎖を介した構造形成因子と分解因子の「綱引き」によって決定されることを明らかにしました。

この成果は、今、注目が集まっている第3の生命鎖である糖鎖を主な研究対象としており、分泌経路のタンパク質（例えば血中へ放出されるタンパク質や細胞表面などに出現する膜タンパク質）を作る小胞体の機能メカニズムへの深い理解につながります。小胞体は、アルツハイマー病、がん、糖尿病などのヒト疾患と密接に関わるため、本研究成果は、それらの新規治療戦略や予防法提案の礎となります。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241211-66322/>)

(9) 「細菌感染症菌種推定支援 AI ソフトウェア BiTTE®-Urine」をカーブジェンと開発

カーブジェン株式会社が開発を行う「細菌感染症菌種推定支援 AI ソフトウェア BiTTE®-Urine」(読み: ビッテ ユリン) が、管理医療機器プログラムとして承認を取得しました。

BiTTE®-Urine は、AI 画像解析技術を活用し、尿のグラム染色画像から菌種推定を支援するソフトウェアであり、地域のアンチバイオグラムとの連携も可能です。

本製品は、カーブジェン株式会社、国立国際医療研究センター・国際感染症センター (NCGM) の山元佳医師ならびに神戸大学都市安全研究センター・医学部附属病院検査部の大路剛准教授らとの共同研究により、開発および実証実験を行ってまいりました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241216-66339/>)

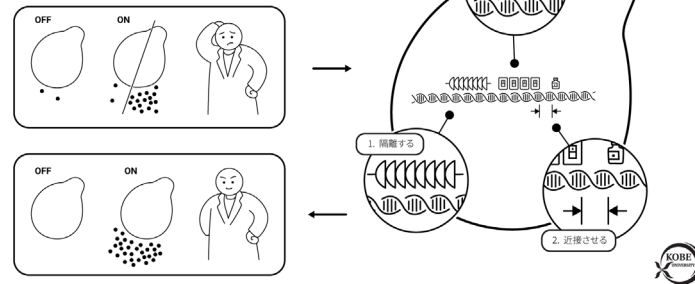
(10) 酵母のタンパク質合成を自在に制御する手法を確立

神戸大学先端バイオ工学研究センター/大学院科学技術イノベーション研究科の富永将大特命助教、石井純准教授、近藤昭彦教授、株式会社ファーマフーズの庄屋雄二次長、染田真孝博士、国立医薬品食品衛生研究所の橋井則貴室長らの研究グループは、酵母の遺伝子発現を制御するプロモータ配列を高性能化するための設計原理を解明しました。

プロモータは、遺伝子からタンパク質が作られる量やタイミングを調整する役割を担っており、高度な生物機能の実現には、この遺伝子発現の量とタイミングが最適化されたプロモータが必要です。今後、解明した配列設計原理を用いることで、医薬品開発やバイオ燃料生産などの分野において有用物質の高生産を自在に行う「デザイナー酵母」の開発が飛躍的に加速されると期待されます。

PROMOTER

【取扱説明書】酵母のタンパク質合成を制御する方法



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241219-66327/>)

【4】フィーチャー

(1) 被災自治体の機能を補う効果的な支援を

－震災 30 年シリーズ⑩【行政学】

東日本大震災では、関西の自治体で組織する特別地方公共団体「関西広域連合」が、東北の被災自治体支援で重要な役割を果たしました。被災自治体と支援側自治体をペアとし、復旧・復興をサポートする「対口（たいこう）支援」（カウンターパート支援）方式を導入しました。この方式はその後の災害にも受け継がれています。自治体同士の支援の現状や課題、南海トラフ巨大地震を想定した展望などについて、神戸大学大学院法学研究科の大西裕教授に聞きました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241129-66259/>)

（２）防災を目的にしない農村地域づくりを

－震災 30 年シリーズ⑪【農業農村経営学】

災害大国の日本では、農村地域が地震や水害でたびたび甚大な被害を受けます。2016 年の熊本地震や 2024 年の能登半島地震一。いずれも、農村地域の復興には、都市部とは異なる課題が立ちはだかります。急激な人口減少、高齢化に直面する中、災害に強い地域づくりをどう進めるのか。神戸大学大学院農学研究科地域連携センターのセンター長、中塚雅也教授（農業農村経営学）に現状や課題、展望を聞きました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

（ <https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241203-66243/> ）

（３）住民が主体となる地域デザインへ

－震災 30 年シリーズ⑫【地域デザイン論】

阪神・淡路大震災の被災地では、大規模な市街地再開発や土地区画整理事業が行われ、復興まちづくりの方針をめぐる行政と市民の対立も起きました。東日本大震災（2011 年）など他の被災地でも、まちづくりのあり方は大きな課題となっています。この 30 年、日本の都市計画はどのような課題に向き合い、どう変化してきたのか。東日本大震災などの現場に入り続け、「地域デザイン」を専門に研究する東北大学大学院工学研究科の窪田亜矢教授に聞きました。

※神戸大学と東北大学は災害科学分野の包括協定を結んでおり、窪田教授は 2025 年 1 月 11 日に本学で開催する震災 30 年シンポジウムに登壇される予定です。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241210-66262/>)

(4) 阪神・淡路大震災 30 年 当時の学生の思いは？

工学部でトークセッション

阪神・淡路大震災から 30 年となるのを前に、当時神戸大学生だった近藤民代・神戸大学都市安全研究センター教授と NHK アナウンサーだった住田功一・大阪芸術大学教授（経営学部卒業生）が語り合うトークセッション「工学部一年生が見た阪神・淡路大震災」が 12 月 11 日、神戸大学工学部で開かれました。震災関連の取材を続ける学生団体「神戸大学ニュースネット委員会」が主催し、神戸大学校友会、神戸大学工学振興会（KTC）が協力。NHK「ラジオ深夜便」の公開収録を兼ねて行われ、学内外の学生らが 2 人の語りに聞き入りました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20241216-66345/>)

【5】受章

（1）紺綬褒章伝達式を執り行いました

【鴻池一季様】

神戸大学基金の『創立120周年記念基盤事業』に多額のご寄附をくださいました鴻池一季様に対し、日本国政府より紺綬褒章が授与されました。これを受け、10月24日(木)に学長室において伝達式を執り行いました。

鴻池様は、神戸大学工学部の卒業生であり、『創立120周年記念募金事業』の発起人の一人として、母校である神戸大学を応援していただきました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241202-66299/>)

【青木正博様】

神戸大学基金の『修学支援事業』に多額のご寄附をくださいました青木正博様に対し、日本国政府より紺綬褒章が授与されました。これを受け、11月15日(金)に神戸大学東京六甲クラブにおいて伝達式を執り行いました。

青木様は、神戸大学理学部の卒業生であり、長年にわたり、神戸大学東京六甲クラブの会員としても母校である神戸大学を応援していただいております。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241202-66300/>)

【坂上明様】

神戸大学の発展のために多額のご寄附をくださいました坂上明様に対し、日本国政府より紺綬褒章が授与されました。これを受け、11月19日(火)に伝達式を執り行いました。

坂上様は、神戸大学医学部の前身である兵庫県立医学専門学校の卒業生であり、医学研究科に対する教育研究へのご支援、医学部75周年事業、神戸大学創立120周年記念募金事業等、多岐にわたるご支援をいただいております。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20241202-66301/>)

【6】 イベント等情報

(1) 神戸大学阪神・淡路大震災30年シンポジウム

神戸大学は、「阪神・淡路大震災30年シンポジウム」を2025年1月11日(土)、神戸大学百年記念館六甲ホールで開催します。震災から30年間の取り組みや研究成果を発信し、参加される皆さまとともに今後の防災・減災、災害復興などについて考えます。

会場参加者には、神戸大学の研究者へのインタビューなどをまとめたブックレットを無料で進呈いたします。

※申込締め切り：2025年1月9日(木)



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/event/20250111-shinsai30/>)

(2) 震災 30 年後期パネル写真展

1995年1月17日に発生した、阪神・淡路大震災。私たちの知らない当時の六甲や深江周辺の被災した街を記録したパネル写真展「あの日、壊れた街 六甲道・深江・三宮…」(主催＝神戸大学ニュースネット委員会)の後期展示が12月16日から始まりました。神戸大学百年記念館1階展示ホールで、2025年1月31日(金)まで年末年始(12月28日～1月4日)を除く平日開催。ただし1月11日(土)、12日(日)は特別開催となります。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://kobe-u-newsnet.com/2024/12/16/>)

(3) その他のイベント情報

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/events/>)

★神戸大学がラジオ関西で情報発信 「神戸大学☆夢ラボ」

神戸大学が持つ「知」を広く情報発信し、各専門分野の研究者が研究のきっかけや研究成果の社会への影響などをリレー形式で伝えています。

放送は毎週日曜日の午前 8 時 45 分から 15 分間、進行役は神戸大学出身のラジオ関西パーソナリティー天宮 遥さんが務めています。

以下のサイトから、放送当初に遡ってご視聴いただけます。

<https://jocr.jp/programs/site/yumelabo/>

★「KU-Net」からのお知らせ

「神戸大学コミュニティネットワーク(KU-Net)」をリニューアルし公開しております。

従来からの、「OB・OG 訪問」の機能に加え、「卒業生からのメッセージ」や「在学生の今」の掲載をしております。また、卒業生等が開催するイベントへの参加申し込み機能も追加しました。

詳しくは、神戸大学コミュニティネットワークホームページ
(<https://www.office.kobe-u.ac.jp/alumni-net/>)でお知らせしています。

また、KU-Net の説明動画を YouTube にアップしておりますので併せてご覧ください。

<https://youtu.be/ZqHCVW0VsuU>

是非ご登録ください。

★神戸大学校友会ホームページ

<https://www.ku-alumni.kobe-u.ac.jp/>

■支部所属の会員の皆様にもお知らせください

神戸大学校友会事務局

657-8501 神戸市灘区六甲台町 1 - 1

神戸大学企画部卒業生・基金課内

TEL 078-803-5042 FAX 078-803-5024

E-mail: plan-ku-alumni@office.kobe-u.ac.jp